

## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山



「盆のお花とり」 昭和40年8月20日撮影

## 「調達は山へ」

夏の盆が近づくと、お墓や仏壇などに供えるシキミなどの「花」を近くの山へ採りに入りました。生えているところを覚えておき、女性2、3人で連れ立って出掛けました。

お供えの花を山から手折ってくることは、行事の習わしでもありましたが、身近な自然からそのとき必要なものを調達することが、日常でした。



「七夕の竹を切る」 昭和39年8月16日撮影

上の写真は、両手いっぱいシキミを採ってきて山を下りてきている様子です。ひき墓、本墓、家の仏様へ使うため多くの量が必要でした。

また、七夕の竹も毎年竹やぶへ切りに行き調達しました。家の軒端(のきば)に立てた竹には、色紙や短冊をつるして飾り付けをしました。伊深では、七夕も旧暦の7月8日(現在の8月7日)に行われました。